

# 防災だより

平成 25 年 3 月発行

第 10 号

2 月 24 日、市民文化会館大ホールで群馬大学大学院工学研究科片田敏孝教授による防災講演会が行われました。「釜石の奇跡」で知られる片田教授は平成 16 年から岩手県釜石市の小中学校で防災教育に取り組んでおり、東日本大震災の悲劇を繰り返さないために、全国各地で防災活動を展開しています。その講演会での内容を一部紹介します。

## ●地域に災害文化を根付かせる

はじめは一般的な防災講演会を繰り返していたが、聴講者が毎回同じことに気づく。このままでは防災の広がりを見ないと実感し、子供たちへの防災教育に力を注いだ。

## ●子供たちへの防災教育

子供を 10 年育てれば、15 歳の子供は 25 歳に、さらに 10 年経過して、35 歳では地域の中核を担うようになる。そうやって防災を「文化」にしてほしい。いざというとき逃げるといふことは、この地域に住まう「作法」なのだと伝えてほしい。

## ●学校から家庭、地域への波及

子供を介して親の関心を引き出し、親子で防災教育に取り組み、地域に波及させる。

## ●東日本大震災での悲劇を繰り返さないために

人は忘却するもの。それを前提に、それでも 3.11 大津波の教訓が生きる文化の熟成が必要。

東日本大震災の津波による死者・行方不明者が 1000 人を超す釜石市で、小中学生約 3000 人が津波から逃れました。5 人が犠牲となりましたが 99.8%の生存率は「釜石の奇跡」と言われています。学校の管理下にあった児童生徒に限らず、下校していた子どもの多くが、自分で判断して高台に避難しました。命を救ったのが、平成 16 年から取り組んでいる片田教授の防災教育でした。東日本大震災から 2 年が経ちました。悲劇を繰り返さないために 10 年後、20 年後も見据えた防災対策を皆で考えていきましょう。

## ●ひと目で分かる、「ここは海拔何メートル」

下田市では津波に対する意識を高めるため、ホームページ上で海拔が簡単にわかる地図を作成しました。自宅だけでなく、緊急避難場所の海拔の再確認、事業所での避難計画の作成など様々な用途に利用してもらえればと考えています。

<http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>



## ●津波避難訓練を実施しました

3月10日、沿岸部の自主防災会で津波避難訓練を実施しました。市内35自主防災会から住民5056人が参加しました。各地区の緊急避難場所までの避難経路を確かめ、避難の際の課題を検証しました。



## ●広域避難所に備蓄品（食料、水など）を配備しています

下田市では広域避難所である各小中学校等へ定期的に備蓄品を配備しています。しかし避難所に配備できる備蓄品の数は限られています。災害発生時、公的機関は人命救助を最優先に活動します。初期段階では物資が十分に行き届かないことが考えられるので、自分でも最低3日分の備蓄品を準備しましょう。



## ●ダイトービバレッジサービスより備蓄用飲料の無償提供を受けました

下田市ではダイトービバレッジサービス様より備蓄用飲料の無償提供を受けました。貴社は下田市と協定を締結しており、災害を想定した物資輸送訓練などにも参加しています。

これからの防災対策には企業の協力が不可欠です。今後も企業との連携を促進し、地域防災力を高めていきます。



発行元：下田市役所市民課防災係 TEL：0558-22-2215

E-mail：shimin@city.shimoda.shizuoka.jp